

国際交流・社会貢献等の概要

●海外の協定相手校

海外教育機関等との提携については、以前行っていたフィンランドセイナヨキポリテクニク大学や中国南海大学濱海学院とは提携の更新を行っていないため、現在までのところ、海外の教育機関等との正式な提携はない。

ただし、今年海外研修で訪問したニューヨーク市立大学ラガーディア校とはインターンシッププログラムを実施する運びとなっており、先方から希望する学生がいるとのことであったため、本学の受け入れ態勢を整わせ、部分協定を締結するところまでの対応を進めていた。しかしながら希望していた本人が直前になり辞退する旨告げてきたので、そのまま保留となっている。今後希望者がいるかどうかにかかわらず、双方で受け入れが可能となるような仕組みを早急に検討し、プログラム実施に向けた協定の締結をすべく準備を進める予定である。

●大学間連携

従来から本学を含む群馬県内 5 大学（高崎商科大学、関東学園大学、共愛学園前橋国際大学、高崎健康福祉大学）による合同の企業研究会を開催していたが、ここでの大学間交流を基にして、より強固な連携協力関係を結ぶべく、平成 27 年度から 5 大学と株式会社スパンによる学生の就職支援を共同で行っていくための協定を締結している。これにより各大学での就職情報等を共有でき、人事交流なども盛んに行われることになり、学生たちが効率的な就職活動を行うため、様々な形で支援できるよう対応が図られている。

また研究活動促進のため、北里大学、東京大学と共同研究契約等を結んでいる。

●産学官連携

○包括連携協定等の締結

上武大学と伊勢崎市は地域社会の発展と人材育成への寄与を目的として、教育、文化、福祉、健康、地域産業、国際交流などの分野において連携、協力する為の協定を結んだ。平成 27 年 2 月 6 日（金）に伊勢崎市役所において行われた締結式には大学関係者 5 人が出席し、澁谷理事長と五十嵐市長によって協定書が取り交わされた。過去にも協力関係にあった上武大学と伊勢崎市であるが、これにより様々な分野で一層の協力・連携関係が築かれることになっている。また今年 1 月 5 日には玉村町と、8 月 25 日には富岡市とも同様の趣旨で包括協定を締結し、地域の活性化、文化的事業の推進、スポーツによる住民の健康維持増進活動の支援など、具体的な活動を視野に入れた包括協定を締結している。さらに高崎市とは部分的協定ではあるが、災害時における施設利用に関する協定を取り交わし、高崎キャンパスのある新町地区の防災に関して、高崎市と連携しながらその対応策の検討を行うこととなっている。

また医学生理学研究所における開発研究推進のため、国内企業・デンカ生研（株）と産学連携の共同研究契約（平成 27 年 10 月より 3 年間）を締結している。

○文部科学省が主宰する補助事業である「地の拠点大学による地方創生推進授業」への参画

標記補助事業には群馬県も積極的に関わり、県が主導する形で群馬県への就業率向上を目的として、共愛学園前橋大学が核となり、本学と高崎商科大学、明治学院大学が協力する形としての参加校として連携し、昨年度補助事業の認定を受けた。ここには群馬県をはじめとして、高崎市、前橋市、伊勢崎市、富岡市の自治体も加わり取り組みを推進している。大学卒業後の群馬県内への就業率が、5 年後に 10% 上昇することを目途とし、大学、自治体そして県内の企業も積極的に協力していく体制が整い、本学をはじめとする各大学も協力して具体的な取り組みを検討・推進している。

○群馬地域大学連携協議会への参画による地域貢献

群馬県が主体となり、県内の自治体が抱える問題・課題解決に大学が積極的に加わり、ともに地域貢献事業を実践していくための組織。本学もこの協議会に参画しており、その中で渋川市の案件として、市内の公民館有効活用の方策を提言する取り組みを実施することとなった。これは本学の専門ゼミの教員と学生が渋川市の市民の方々へのアンケート調査などを実施しながら、市内にある公民館の利用状況や存在意義などを取りまとめ、これに基づく提言を行っていくものである。なお渋川市からはこの調査研究に関する補助金も交付されている。

●社会貢献活動

○公開講座

- ・上武大学手がき文化研究所第 3 回公開講座「棟方志功Ⅱ」

平成 27 年 10 月 11 日 高崎キャンパス

講師／小池邦夫（上武大学手がき文化研究所所長）

棟方志功の作品を描くときは、普段の絵手紙とは違い「速筆」で描くという説明の後、参加者は実技に取り組んだ。多くの参加者の中に本学学生も多数加わり、一般参加者と和やかに会話を弾ませていた。毎年学園祭時に開催されるこの事業は、こうした地域住民の方々と学生との交流の場としても機能している。

- ・スポーツコンディショニング講座

平成 28 年 2 月 20 日・27 日 全 5 コマ 伊勢崎キャンパス

講師／柳澤修准教授、井田博史准教授、若松健太講師、西川彰講師、二橋元紀講師

第 1 回 ランニングに役立つ肩甲骨ストレッチ

- 第 2 回 スポーツ障害とバイオメカニクス
- 第 3 回 自宅でできる簡単スポーツマッサージ
- 第 4 回 股関節のコンディショニング
- 第 5 回 スポーツ障害に対するキネシオテーピング

○授業等を通じたボランティア活動

- ・群馬整肢療護園 夏祭りボランティア
平成 27 年 6 月 27 日（土）1 日間
学生 5 名参加
施設利用者の車いすの移動介助
お店でのお買い物の手伝い
催し物会場での付添い

- ・新町デイサービス夏祭りボランティア
平成 27 年 8 月 7 日（金）14 時～15 時
学生 1 名参加
焼きそばの販売、抽選会や演劇などの催し物の支援を行った

- ・第 9 回大船渡ワークキャンプ＜大船渡赤崎復興隊＞ボランティア
平成 27 年 9 月 19 日（土）～平成 27 年 9 月 22 日（火）4 日間
学生 3 名、教員 1 名 計 4 名参加
震災地の整地ワーク、赤崎地区市民との復興の集い、赤崎復興市、仮設住宅の訪問等

- ・安中市「第 15 回福祉ふれあいまつり 2015」ボランティア
平成 27 年 9 月 19 日（土）～平成 27 年 9 月 20 日（日）
学生 2 名参加
会場設営、各種イベント支援、福島被災地支援ブースでの販売、清掃支援等

- ・しんまち商工祭 2015, しんまち大道芸まつり
平成 27 年 11 月 1 日（日）8 時～15 時
学生 45 名参加
実行委員会参加、企画運営、会場設営、片づけ等

- ・しんまちフェスタ 2015 ボランティア
平成 27 年 10 月 18 日（日）6 時 30 分～21 時
学生 22 名参加

実行委員会参加、会場設営、音響等支援

- ・ 第 17 回ぐんま環境フェスティバルボランティア
平成 27 年 10 月 3 日（土）9 時～17 時
学生 18 名参加
群馬県の行政、産業界、学界が取り組んでいる事業を展示し、また学界基調講演が行われるイベント。
会場設営、来場者案内、企業・行政・大学等の事業展示支援、吹奏楽部による式典や環境行進出発式での音楽吹奏支援等
- ・ たかさき産業祭 2015 ボランティア
平成 27 年 11 月 7 日（土）～平成 27 年 11 月 8 日（日）
学生 9 名参加
高崎市内の主要なものづくり関連企業、団体が 50 社以上集まり、高崎地域の先進的な技術や製品を紹介するイベント。
受付支援、体験イベントのサポート、模擬店支援等
- ・ 第 3 回青島広志の「アットホームコンサート」イベントボランティア
平成 27 年 12 月 25 日（金）
学生 9 名参加
上毛新聞社主催の音楽会。
会場整理、受付・案内支援、駐車場整理
- ・ JR 主催「駅からハイキング」イベントボランティア
平成 28 年 2 月 21 日（日）
学生 4 名参加
上武大学近くの烏川河川敷に白鳥が渡来することから、JR 主催の「駅からハイキング」のコースとなっている。そのため、河川敷の清掃、「駅からハイキング」当日の案内等を支援した
- ・ 第 10 回大船渡ワークキャンプ＜大船渡赤崎復興隊＞
平成 28 年 3 月 10 日（木）～平成 28 年 3 月 13 日（日）
学生 1 名、教員 1 名 計 2 名参加
追悼式準備、除草作業、仮設住宅への便利活動（換気扇掃除、窓ふきなど）
- ・ 第 28 回たかさきスプリングフェスティバル

平成 28 年 4 月 29 日（金）

学生 2 名参加

会場設営、出演者との連絡調整、焼きそば・飲み物販売等

- ・ 社会福祉法人みどの福祉会・みどの学習クラブ実施の学習サポート

平成 28 年 5 月から毎週金曜日 17 時 30 分～19 時 30 分

学生 2 名参加

家庭の事情などで塾や学習にお金をかけることができない子どもを対象に学習サポートを行う。支援対象者は主に小学校 4～6 年生

- ・ 群馬整肢療護園夏祭りボランティア

平成 28 年 6 月 25 日（土）

学生 6 名参加

群馬整肢療護園での夏祭りにおける、利用者の車いすの移動介助、模擬店での買い物補助、催し会場での付添い

- ・ 新町七夕まつり

平成 28 年 7 月 1 日（金）～3 日（日）

学生 40 名、教職員 2 名参加

お祭りの企画・運営、飾り付け等の準備、かき氷・チョコバナナ・落書きせんべい等各種販売、イベントでのパフォーマンス、「学生が考えた駅からハイキング」の企画・支援、上武大学内では、絵手紙ギャラリー&ミュージアムの見学・絵手紙体験の実施、その他各種イベントの補助、片付けなど地元のお祭りを支援

- ・ 群馬県戦没者追悼式ボランティア

平成 28 年 5 月 15 日（月）

学生 2 名参加

群馬県内大学生と共にボランティアとして参加。参列者への配布物の準備作業と配布、受付、後片づけ等の活動

○高大連携の推進

群馬県内の高等学校のうち、吉井高校、高崎東高校、榛名高校、高崎高等支援学校の 4 校とは高大連携協定を締結している。内容的には高等学校におけるカリキュラム支援や、テーマ学習の協働研究・発表、共同のボランティア活動、キャリア教育支援などであるが、このうち榛名高校においては、高校側からの要望を受けて、本学における絵手紙の活動を高校生にも体験してもらう授業を実施した。その結果毎年 4 月の新入生また榛名高校も加

わっている県内「家庭クラブ」の研修会において、各高校からの代表者らおよそ70名に対しても、同様に絵手紙体験を実施した。

○地域との連携

本学高崎キャンパスがある高崎市新町において、地元の商店連盟・商工会議所と協定を締結し、新町地区の活性化のために、学生達も協力しながら様々な活動を行っている。具体的には新町祭り及び新町商工祭への企画参画と運営補助、小学生らの通学路における防犯パトロールなどがあり、その他にも学生たちはいろいろなボランティア活動により、町の運営に協力している。また富岡製糸場と同様の歴史的価値のある建造物、新町紡績所の世界遺産追加登録に向けて、よみがえれ新町紡績所の会とも包括協定を締結し、大学と町を挙げて、文化的活動を推進している。

○国際交流活動の推進

手がき文化研究所の活動として、絵手紙を通じた地域貢献を実践しているが、平成27年2月に大学における国際交流活動の一環として、上武大学生9名とともにパリ日本文化会館で現地のフランス人を相手に絵手紙教室を実施した。絵手紙教室を受講したのはパリ日本文化会館で日本語を学ぶ人で、フランス国立東洋言語文化大学の方々を含むおよそ30名。同会館事務局では「平日にこれほどの参加者が集まるのは珍しい」という人気ぶりであった。教室が始まると受講生はいずれも真剣な表情で筆を持ち、フランス人ならではの豊かな色彩感覚で絵手紙を完成させてくれた。

本学学生たちは初めて絵手紙の指導役となったうえ、相手はフランス人。はじめはかなり緊張していたが、何とかコミュニケーションを取ろうとする姿勢が受講生にも伝わり、英語と日本語を織り交ぜて意志の疎通を図ることができた。この体験は学生に大きな印象を与えたようで、大学としての国際交流事業としても有意義であったため、今後継続して実施される予定であり、既に平成29年に再度訪問する計画が立てられ、現地を交えた調整に入っている。また今年3月には同様の取り組みをニューヨーク市立大学の協力を得て、大学で日本語学んでいる学生達に絵手紙の手ほどきを行い、本学学生達との交流もパリ同様同時に行った。ニューヨークでは参加したのが大学の学生達であったことから、ニューヨーク市内の案内をこの参加学生たちが引き受けてくれて、講義以外での交流が盛んに行われた。また担当の教員からは学生の日本におけるインターンシップ先として上武大学で検討してもらいたい旨要望もあったため、帰国後国際交流協定を視野に入れた、インターンシップ協定の締結に向けて、検討調整を行った。

○医学生理学研究所

澁谷正史所長がこれまでに研究されてきた成果物について、国内外の研究機関などから利用希望の申し入れがあり、一定の条件のもと譲渡を行っている。これらの成果

物に関しては、成果有体物譲渡契約書を締結し、東京大学医科学研究所の協力を得ている。

実際に、著名な製薬企業である米国の Eli Lilly 社から、商業的価値あるものの開発のため研究用マテリアルの譲渡依頼があり、これに対しては有償の譲渡を行った。また、ハーバード大学をはじめとする大学・研究機関からは過去4年間で30件近い成果物の譲渡依頼があり、これらに対しては無償譲渡をおこなっている。

さらに、産学連携としてデンカ生研（株）と妊娠高血圧症候群の新規診断法開発をめざした3年間(2015-17)の共同研究契約を結び、研究費の提供を受けて開発を進めている。大学間では、東京大学、北里大学と共同研究契約を締結して研究を進めている。

国際交流として、2015年にはトルコの医科大学生を夏季研修生として受け入れ、40日間研究を指導した。

○さまざまな機関や団体、行政などからの要望に応じて、本学教育職員を送り、社会貢献の役割を担っている。

- ・学長

公益財団法人 武田科学振興財団理事、公益財団法人 金原一郎記念医学医療振興財団理事、兼、研究費審査委員会委員、公益財団法人 微生物化学研究会研究アドバイザー、公益財団法人 高松宮妃癌研究基金学術委員、独立行政法人 産業技術総合研究所 ヒト由来試料実験倫理委員会部会長、公益財団法人 がん研究振興財団評議員、第36回日本リンパ学会総会招待講演、平成24年度日本生化学会関東支部例会特別講演、第3回がん微小環境に関する国際シンポジウム（中国、清華大学）招待講演、北京大学・特別講演など

- ・公的研究（科学研究費）関係

公的研究費の獲得にも力を入れており、競争的研究資金である科学研究費補助金（科研費）については、代表研究者として平成27年度9件、平成28年度8件が採択されている。